

2021 年 11 月 日制定

1. 原稿の順序

(1) 論文（報文，ノート），総説，解説，資料

初めに和文で，略表題，表題，著者名，所属機関・所在地，受理日・連絡著者・連絡先・当該論文の事業名などの脚注，要旨，キーワードの順に記載する。続けて英文で，表題，著者名，所属機関・所在地，要旨，キーワードの順に記載する（記載例を参照）。

本文の緒言は新しいページから始め，ついで，材料と方法，結果，考察（または，結果と考察），謝辞（必要な場合），引用文献の順に記載し，そのあとに，図表の表題と注，図，表を付ける。

当該論文に係る事業名（経常研究等の制度名）は脚注に記載する。謝辞，引用文献がない場合は記載不要とする。

(2) 依頼原稿（総説，解説，講座，資料）

論文に準じて原稿を記載する。なお，英文の記載は省略することができる。

2. 刷り上がりの様式

(1) レイアウトは著者がとくに希望する以外は編集委員会・印刷所に一任する。

(2) 表題，著者名，所属機関・所在地，要旨，キーワードは 1 段構成とし，1 行あたりの文字数は 54 字を上限とする。なお，行数について上限は設けない。

(3) 本文以下は 2 段構成とし，1 行あたり 27 文字を上限とする。また，本文以下の 1 ページあたりの行数は 46 行を上限とする。

3. 原稿の表記，記載文字・記号等

(1) 本文が和文の場合

- ・原稿は「Microsoft Word」で作成する。それによりがたい場合は研究会事務局等に相談する。
- ・用紙の大きさは A4 判，上下左右に 25mm 以上の余白をとる。原則として 1 ページ 25 行，1 行 36 文字とする。原稿には，ページごとに行番号を，各ページの中央下にページ番号を付ける。本文と図表を 1 つの PDF ファイルにまとめる。
- ・「である調」とし，平易かつ簡潔な表現とする。
- ・和文のフォントは MS 明朝（11pt），英文のフォントは Times New Roman（11pt）を使う。文字を太字にする場合は「ボールド」を，斜字体は「イタリック」を，文字を下付きに配置する場合は「下付き文字」を，上付きに配置する場合は「上付き文字」を使う。
- ・和文は全角文字で入力する。なお，英字およびアラビア数字（0，1，…，9）は半角とする。
- ・句読点・括弧は全角の「，（コンマ）」，「。（まる）」，「()（括弧）」とする。また，「・」，「？」，「～」，「%」も全角とする。
- ・「X」と「×」，「一」と「ー」，「ー」と「一」，「1」と「l」などを区別して入力する。

(2) 本文が英文の場合

- ・原稿は「Microsoft Word」で作成する。それによりがたい場合は研究会事務局等に相談する。
- ・フォントは Times New Roman（11pt）を使う。文字を太字にする場合は「ボールド」を，斜字体は「イタリック」を，文字を下付きに配置する場合は「下付き文字」を，上付きに配置する場合は「上付き文字」を使う。
- ・英文はアラビア数字（0，1，…，9）を含めて半角文字で入力する。
- ・句読点・括弧は半角の「，（コンマ）」，「.（ピリオド）」，「()（括弧）」とする。

4. 略表題, 表題, 著者名, 所属機関, 脚注

- (1) 略表題は著者名(姓のみ)を含めて30字以内とする。3名以上の著者のときは筆頭著者名「ら」とする。

(例) 新田ら一福島県浜通り地域産米における貯蔵物質の微細構造的特徴
新田・渡邊一福島県内の水田土壌の理化学的特性

- (2) 表題は原則として主題と副題に分けない。分けるときの副題は「-○○○-」とする。
(3) 著者名の右側に「1)」などをつけ, 著者名欄のつぎの()内に「1) 茨城大学農学部」などと所属機関名を記す。
(4) 「受理日・連絡著者・連絡先・当該論文の事業名」などの脚注は, 連絡著者: 氏名, 郵便番号, 所在地, TEL 番号, FAX 番号, e-mail アドレスの順とする。必要があれば研究費の出所などを続けて記す。

(例)

年 月 日受理。連絡著者: 新田洋司 〒300-0393 茨城県阿見町中央 茨城大学農学部
TEL029-888-8551, FAX029-888-8551, nittay@agri.fukushima-u.ac.jp 本研究の一部 JSPS 科研費 JP○○○○○による。

5. 要旨, キーワード

- (1) 要旨は改行しない。また図表や文献を引用しない。文字数は600字以内とする。なおノートでは100文字程度とする。
(2) キーワードは50音順とし, 5語までとする。検索に使われやすい用語を用いる。

6. 英文の表題, 著者名, 所属機関, 要旨, キーワード

- (1) 表題(Title)の単語は, 前置詞, 冠詞, 接続詞以外は大文字で始める。なお, 副題は文頭・固有名詞等の先頭文字は大文字とする。
(2) 著者名は姓を・名の順とし, 姓の全文字と名の先頭文字を大文字とする。著者名の右側に「1)」などをつけ, 著者名欄のつぎの()内に「1) School of Agriculture, Ibaraki University」などと所属機関名を記す。
(3) 要旨(Abstract)は和文の要旨と同様の形式とし, 230語以内とする。なおノートでは50語程度とする。
(4) キーワード(Key words)は和文のキーワードと同様の形式とする。ただしアルファベット順とし, いずれも大文字で始める。

7. 本文

- (1) 本文は, 緒言, 材料と方法, 結果, 考察(または, 結果と考察), 謝辞(必要な場合), 引用文献の順とする。なお, 「緒言」の項目は記さない。各項目の見出し字句は行の中央に書く。すべての段落の先頭は1字あける。
(2) 各項目中の大見出し, 中見出しおよび小見出しは, それぞれ1, 2, 3, …, (1), (2), (3), …, i), ii), iii), …のように順次区別する。中見出しまでは見出し字句をつけ, 改行して文章を書き出す。小見出しは見出し字句をつけ, 改行して文章を書くことを原則とするが, 見出し字句のあとに「:」をつけて改行しないで文章を続けてもよい。
(3) 専門用語は原則として文部科学省学術用語審議会編「学術用語集」, 日本作物学会編「新編 作物学用語集」, 日本作物学会編「作物学用語事典」, 日本育種学会編「新編育種学用語集」による。略語または記号を用いるときは, 最初に用いる箇所では正式名称を書き, 括弧内に略語や記号を示す。
(4) 物理量の記号および使用上の規約は, なるべく IUPAC (国際純正応用化学連合) の勧告に従う。

付記 1 および「物理化学で用いられる量・単位・記号」((社) 日本化学会標準化専門委員会監修, 朽津耕三訳, (講談社サイエンティフィック, 東京) (1991), 要約版は, 化学と工業, 42 (3), 498-506 (1989) を参照する。

(5) 単位は付表に準拠する。

(6) 数値は「単位語を併用する」か「数字のみ使用し, 3 ケタごとにコンマで区切る」ことで表現する。数字と単位の間には半角スペースを入れない。

(例) 125000 人→12 万 5 千人 or 125,000 人

(7) 化合物名は原則として IUPAC (国際純正応用化学連合) 命名法に従い日本語で書く。本文中では化学式を用いず, 名称を用いて書く。長い化合物名の場合は, 上記専門用語に準じて略語を用いてもよい。また, 化合物の名称として, 一般に使用されるものを用いてもよい。

(8) 外国の人名, 会社名などはアルファベット表記とする。ただし, 例のように, 周知の術語となっている人名はカタカナ書きでもよい。人名には敬称をつけない。

(例) ケルダール分解法, ソモギー法, モール法, フェーリング液など

(9) 動植物名は, 文部科学省学術用語審議会編「学術用語集-動物編, 植物編」, 日本作物学会編「作物学用語集」, 日本作物学会編「作物学用語事典」, 日本育種学会編「新編育種学用語集」, 園芸学会編「園芸作物名編」などを参照し, カタカナ書きとする。学名は例のように属 (第 1 字目を大文字とする), 種, 変種, 亜変種の部分をイタリック体とする。

(例) リンゴ *Malus domestica* Borkh.

ウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marc.

動植物体の加工品は例のように原則としてひらがなまたは漢字を用いる。

(例) コムギ こむぎ粉, 小麦粉

サケ 塩さけ

(10) 微生物の名称および用語については, 日本細菌学会用語委員会編「最新版英和和英微生物学用語集」などによる。また微生物の学名は, 例のようにイタリック体とする。

(例) 微生物の属名のみを記載する場合

Aspergillus sp.

属・種名を記載する場合

Aspergillusoryzae

亜種・変種などを記載する場合

Bacillus cereus var. *mycoides*

特定の菌株などを記載する場合

Escherichia coli K-12

(11) 酵素の分離精製, 諸性質の解明および応用に関する論文では, 対象酵素の酵素番号および系統名を必要箇所に記述する。酵素番号および系統名は国際生化学連合 (I.U.B.) 酵素委員会報告 “Enzyme Nomenclature Recommendations (1984) of the Nomenclature Committee of the International Union of Biochemistry, Academic Press (1984)” に準拠する。

(例) グルコースイソメラーゼ (E.C.5.3.1.5, D-Xyloseketol-isomerase)

論文で用いている酵素名が系統名と異なることから, 酵素番号と系統名を記述する。

トリプシン (E.C.3.4.21.4)

論文で用いている酵素名が系統名と同一のため, 酵素番号だけを記述する。

(12) その他

・数学的演算子 (d, Δ など) および数学的定数 (e, π, i など) はローマン体とする。

・式は斜体とする。

・積は 101.325×108 とし $101.325 \cdot 108$ としない。

・範囲を示す場合は $(1.0 \sim 1.5) \times 108$ または $(25 \pm 0.5) ^\circ\text{C}$ と書く。

・商を表わす斜線 (/) を用いるとき, 混同を避けるためかっこを必要とする。

(例) $a+b/c+d$ (= $a+bc^{-1}+d$ と混同する) とせずに $(a+b) / (c+d)$ とする。 $(a/b) / c$ は $a/b/c$ としてはならない。

8. 図・表

- (1) 図・表は、和文では第 1 図、第 1 表、英文では **Fig. 1**, **Table 1** などとする。写真は図に含める。
- (2) 図・表は本文中に入れず、本文中の初出箇所の右側余白に赤字で指定する。図・表は、本文のあと（引用文献のあと）にページをあらためて記載する。1 ページに 1 つ（1 ページに 1 つの図または表）とし、余白に著者名、図・表の番号、刷り上がりへの大まかな縮尺（2/3 など）を赤字で記入する。
- (3) 図・表およびそれらの表題で使うフォントは、和文では **MS 明朝**、英文では **Times New Roman** とする。句読点は、和文では全角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」、英文では半角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」とする。
- (4) 表題は、図では図の下部に、表では表の上部とともに中央に配置する。
- (5) 図・表が英文の場合、タイトルおよび図・表中の英文や語句は、最初の文字を大文字とし、以下は小文字とする。
- (6) 表では、最上線の横線は 2 本線とし、その他の横線は 1 本線とする。縦線は用いない。
- (7) 図は閉じた形式のものを用いる。凡例やグラフの目盛は図の外に記載するのを原則とするが、図の内側に記載するのが見やすく、理解しやすい場合はこの限りではない。グラフの縦軸の説明文字や物理量・単位は下方から上方へ向かって、横軸のそれは左から右へ横書きとする（ただし目盛の数字はこの限りでない）。
- (8) 図・表で分析結果の有意差検定に関する記述をする場合は、サンプル数は **n**、危険率 **p** とそれぞれイタリックで表記する。

9. 引用文献

- (1) 記載順序は筆頭著者の姓のアルファベット順とする。同一筆頭著者（単独名を含む）のものは年次順とする。同一筆頭著者で同一年次のものは年次の後に **a**, **b**, … を付す。
- (2) 著者名は、和文文献では姓と名の間を開けない。英文文献では姓以外はイニシャルのみとする。
- (3) 句読点は、和文文献では全角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」、英文文献では半角「，（カンマ）」、「.（ピリオド）」とする。
- (4) 雑誌名の略称は **ISDS** 誌名略記法リストによるが、各学会で慣用されているものはそれによる。なお、引用文献における雑誌名称の略称表記は、「雑誌名称の略称表記」を参照し正確に記載する。不明な場合は編集委員会に問い合わせる。
- (5) 本文中の文献引用形式は下記のようにする。同一箇所に 2 つ以上の文献を引用する場合は発表年次順に記す。
(例) 新田・星川 (1992), (Turk and Turk 1988), (Hall ら 1961a, b, 田中ら 1963)
- (6) 試験成績書、私信などは引用文献の中に入れないで、本文中の引用の直後に“(注：○○○)”と続けて記す。

付表

SI 単位			倍数に関する接頭語		
量	名 称	単位記号	倍 数	名 称	記 号
長 さ	メートル	m	10 ¹⁸	エクサ (exa)	E
質 量	キログラム	kg	10 ¹⁵	ペタ (peta)	P
時 間	秒	s	10 ¹²	テラ (tera)	T
電 流	アンペア	A	10 ⁹	ギガ (giga)	G
温 度	ケルビン	K	10 ⁶	メガ (mega)	M
物質質量	モル	mol	10 ³	キロ (kilo)	k
光 度	カンデラ	cd	10 ²	ヘクト (hecto)	h
平面角	ラジアン	rad*	10	デカ (deca)	da
立体角	ステラジアン	sr*	10 ⁻¹	デシ (deci)	d
* 補助単位			10 ⁻²	センチ (centi)	c
SI 単位と併用される単位			10 ⁻³	ミリ (milli)	m
量	単 位 (記号)		10 ⁻⁶	マイクロ (micro)	μ
時 間	分 (min), 時 (h), 日 (d), 年 (yr)		10 ⁻⁹	ナノ (nano)	n
平面角	度 (°), 分 (′), 秒 (″)		10 ⁻¹²	ピコ (pico)	p
体 積	リットル (L)		10 ⁻¹⁵	フェムト (femt)	f
質 量	トン (t)		10 ⁻¹⁸	アト (atto)	a
面 積	アール (a)				

固有の名称を持つ組立単位の例			
量	名 称	記 号	定 義
周 波 数	ヘルツ (hertz)	Hz	s ⁻¹
力	ニュートン (newton)	N	kg ms ⁻²
圧 力	パスカル (pascal)	Pa	Nm ⁻²
エネルギー	ジュール (joule)	J	Nm
仕 事 率	ワット (watt)	W	Js ⁻¹
電 圧	ボルト (volt)	V	WA ⁻¹
電気抵抗	オーム (ohm)	Ω	VA ⁻¹
温 度	セルシウス度 (degree Celcius)	°C	°C = K - 273.15
放 射 能	ベクレル (bequerel)	Bq	s ⁻¹
	キュリー (curie)	Ci	s ⁻¹
濃 度	モル濃度 (molar)	M	mol L ⁻¹

作物学分野で使われる測定量の表示法の例	
量	表 示 法
収 量	[P] g m ⁻² [A] kg ha ⁻¹ , Mg ha ⁻¹ , t ha ⁻¹
葉面積比率	m ² kg ⁻¹
施 肥 量	[P] g m ⁻² [A] kg ha ⁻¹
植物体水分含量	[P] g kg ⁻¹ [A] %
土壌水分含量	[P] kg kg ⁻¹ , m ³ m ⁻³
光エネルギー強度	W m ⁻² , J m ⁻² s ⁻¹
光量子密度 (光合成有効放射速度)	μ mol m ⁻² s ⁻¹
光合成, 呼吸速度	[P] μ mol m ⁻² s ⁻¹ [A] mg dm ⁻² h ⁻¹ , mg m ⁻² s ⁻¹
蒸 散 速 度	[P] g m ⁻² s ⁻¹ [A] g dm ⁻² h ⁻¹

注) [P] は望ましい表示法, [A] は許容されるべき表示法を示す.